

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/12/21 実施)～

参加者: 6名

※この観察日記は、参加者の感想を基に構成されています。

赤みの強い黄色のあのかわいいウリは、子供のころの冬の遊びを思い出す。小さい頃(昭和の30年ころ)の男の子はポケットには小刀・肥後守(ひごのかみ)を常に入れていた。学校に行くときも同様で、鉛筆削りにも使っていた。女の子も筆箱に入れていたような気がする。楽しい遊びは肥後守を使い、小鳥をとらえる罠を作ることであった。この罠には小鳥を呼び寄せるための餌として、目立つ赤や黄色の木の実を使った。このカラスウリは餌としては大きく良いもので、アオキ等の実も沢山あり良く使った。非常に楽しい思い出をこのカラスウリが与えてくれた。



カラスウリ (10月撮影)



枯れたアシの間からアオジらしい声が聞こえる。姿を見せないかなと見回すが、はっきりととらえられない。藪の中からウグイスの地鳴きも聞こえる。木々の間からメジロの声も聞こえた。が、姿はなかなか見られない。今日は寒いから鳥も冬ごもりか？

木の枝に何かの巣を発見、カラスにしては少々小さいかも。山側でビニールハンガーが大量に見つかった。これはカラスのしわざ。

国道側の葉を落とした柿の木の枝にモズのごちそう(ハヤニエ)を見つける。干からびたカエルはアカガエルか？オオカマキリ、チョウセンカマキリの卵も見られた。



モズのはやにえ



鳥の巣

セリ、ヨモギ、カキドオシ、ハコベ、タネツケバナ、タガラシ、ケキツネノボタン。冬枯れのなかでも緑の葉がみられる

あれ？まるで生け花のように花をつけた草が一本。カントウヨメナか。いや、どうもヒメジョオン？らしい。

ビワの木はこの時期花をつけている。観察会終了後、富士川ぞいの木の上にシメ、続いてモズがあらわれた。枯草のなかでアオジが数羽たわむれている。元気がとてもよさそうだ。最後にやっと鳥の姿を確認できてよかった。



ビワの花



生け花のようなヒメジョオン

暗い寒い日で、鳥たちの動きも鈍いのか、あまり出会えませんでした。

いつもの観察路から外れてるので、今まで観察することのなかったノシランを今回注目しました。土塁下の林の中に開園当初から、かなり大きな株であったと思います。海岸の近くの林に多いらしいので、ここにあるのは誰かが植えたのだろうと勝手に思っていました。近くにヤブコウジや、サネカズラもあって、この辺りも観察場所に入れてもいいかもしれません。

1月の観察会は、、、

1月18日（土）

9:30 駐車場集合（小雨決行）です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。

観察会は**基本的に毎月第3土曜**に開催です。

お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com（相澤）